

# バックオフィスDXの進め方

## 導入手順と成功ポイント



# 本資料でわかること

バックオフィスDXを始めるにあたり、まずは**自社の業務を客観的に見直すこと**から始めましょう。

本資料では、具体的なアクションプランについて、初心者でも理解しやすいよう**3分でわかりやすく**ご説明します。



1. 現状を見える化する

2. 優先順位付けをする

3. 中小企業向けDXツール紹介

4. ツール選びで失敗しないための5つのポイント

5. よくある質問

# 1. 現状を見える化する

バックオフィスDXの出発点は、「**今の業務を正しく知ること**」です。  
いきなりツールを導入するのではなく、まずは社内業務を洗い出し、どこに課題があるのかを整理することが重要です。これは、大掃除を始める前に部屋を見渡して作業の優先順位を考えるようなものです。

## 01 業務の洗い出し

経理・人事・総務などの業務を部門別にリストアップ

## 02 業務の流れの可視化

業務の流れを可視化し、重複や無駄を発見

## 03 課題の抽出

手間がかかる・ミスが多いなど、非効率的な部分を洗い出す

## 04 定量的なデータの収集

作業時間やコストを数値で把握し、改善効果の測定基準にする

## 2. 優先順位付けをする

現状分析が終わったら、次に重要なのは「**着手領域の選定**」です。

すべての業務を一度にデジタル化するのは非現実的で、むしろ**失敗のリスク**が高くなります。そこで、効果が大きく、実現しやすい業務から始めるのが成功のカギです。

### 優先順位を決める4つの視点

- ✓ **投資対効果(ROI):**  
デジタル化によりどれだけの時間・コストが削減できるか？
- ✓ **実現の容易さ:**  
業務フローの変更が少なく、現場が受け入れやすいか？
- ✓ **影響範囲:**  
他部門への波及効果があり、全社的な生産性向上につながるか？
- ✓ **緊急性:**  
放置できない深刻な課題を抱えている領域か？

4つの視点で業務ごとに点数をつけて可視化することで、最初に取り組むべき領域が明確に

業務	ROI	実現容易性	影響範囲	緊急性	合計
請求書管理	5	4	4	5	18
勤怠管理	4	5	3	3	15
文書管理	3	3	5	2	13

※各項目は1～5点で評価

### 3. 中小企業向けDXツール紹介

着手する業務が決まったら、次は目的に合ったツールの選定が重要です。多機能なものを選ぶよりも、「**自社の課題を解決できるか**」「**現場が使いやすいか**」を重視しましょう。ここでは、バックオフィス業務別に代表的なツールの種類を紹介します。

#### ◆ 経理・財務管理ツール

請求書発行、経費精算、帳簿作成などの作業を自動化し、入力ミスや集計の手間を軽減します。

#### ◆ 人事・労務管理ツール

勤怠打刻、給与計算、年末調整や社会保険手続きのペーパーレス化を実現します。

#### ◆ 文書管理ツール

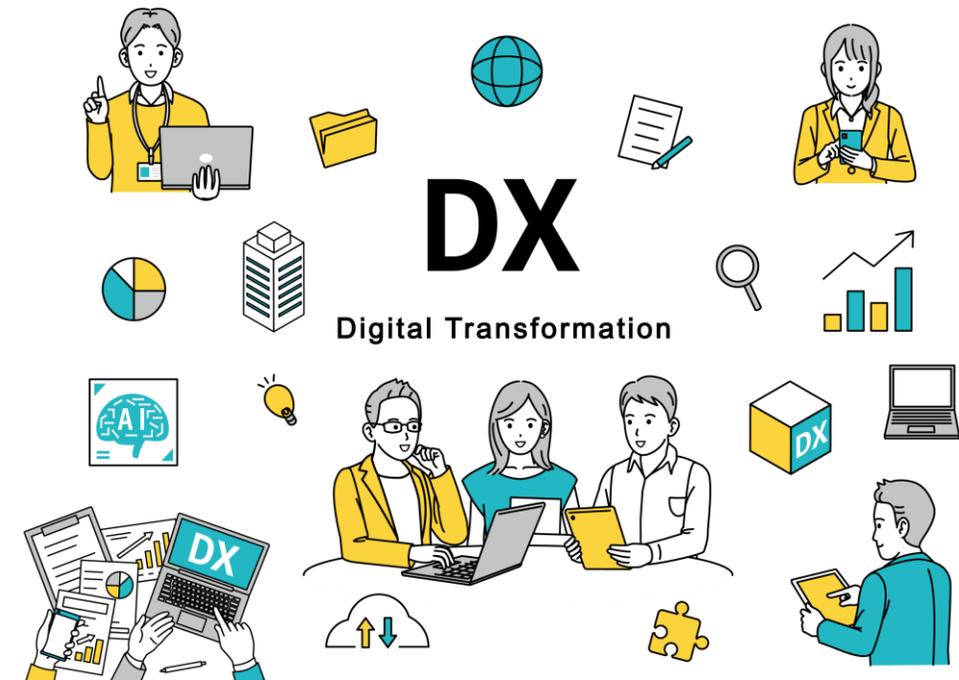
契約書や社内資料のクラウド保存・共有により、情報の検索性とセキュリティを両立。

#### ◆ 在庫管理ツール

棚卸や発注業務を効率化し、在庫の可視化・リアルタイム把握が可能になります。

#### ◆ 顧客管理(CRM)ツール

顧客情報や対応履歴を一元管理し、営業活動の精度とスピードを高めま



## 4. ツール選びで失敗しないための5つのポイント

どんなに高機能なツールでも、自社に合っていないければ成果は出ません。

**ツール選びの成否が、DXの成果を左右**します。

以下のポイントを意識して、現場が使いこなせるかどうかを重視して選定しましょう。

### ツール選定時の5つの視点

01. **使いやすさ:** 誰でも直感的に操作でき、学習コストが低いか？
02. **拡張性:** 事業の成長に応じて機能を追加できる柔軟さがあるか？
03. **連携性:** 他の業務システムとスムーズにデータ連携できるか？
04. **サポート体制:** 導入時や運用中に手厚いサポートを受けられるか？
05. **コスト:** 初期費用とランニングコストのバランスがとれているか？

## 5. よくある質問

### Q1:バックオフィスDXは小規模企業でも取り組めますか？

A:はい、規模に関わらず取り組めます。むしろ小規模企業の方が導入しやすいケースも。例えば、クラウド会計ソフトの導入から始めるなど、小さな一歩から始められます。ツール自体の課金形態も従量制のものが多いので、初期投資を抑えられるんですよ。

### Q2:どの業務からDXを始めるべきですか？

A:多くの企業様は、経理や人事などの定型業務から始めます。効果が分かりやすく、従業員の負担も大きく減らせるからです。ただ、各社の課題は異なるので、まずは無料診断で最適な順序を一緒に考えましょう。御社に合わせたロードマップをご提案させていただきます。



## 最後に

実際にツールを選ぶ際は、無料トライアルを活用して、実際に使ってみることをおすすめします。

また、コレカラDXのようなDX支援サービスを活用し、不明点をまずは聞いてしまうのは非常に有効です。

まずは無料相談から始めてみませんか？

[コレカラDX お問い合わせフォーム](#)



# コレカラDXでできること

お困りごとが具体的でもそうでなくても、最適な解決策をご提案。  
WEBでは収集できない情報を加味し、ベストなマッチングをサポートします！

## case 01

こんなことって、DXで解決するの？

発注決定前のふわっとした  
要件相談をしたい



## case 02

どんな会社がパートナーにふさわしい？

パートナー企業選定の  
アドバイスが欲しい



## case 03

すぐに相談できるの？

情報収集する時間がないので、  
DXで実現できることを教えて欲しい

